

注意！輪紋病・炭そ病！

2020年9月 園芸課

お盆過ぎから、炭そ病・輪紋病が発生しています。梅雨期間で感染が拡大し、約1-2か月の潜伏期間を経てここで病斑として発生したと推測されます。この病害は共に成熟期の果実を腐敗させます。9月末まで薬剤散布を実施し、健全果への感染防止につとめてください。

今年の特徴として、炭そ病・輪紋病が同時発生しています。両病害とも果実腐敗を招きます。また、品種により発生する病害に差があります。特徴を見分けて、早めに対策を講じてください。

観察項目	炭そ病	輪紋病
病斑の形状	<u>円形で硬い</u> 病斑部分はくぼむ	<u>円形で柔らかく、破れやすい。</u> 病斑部分はあまりくぼまない。
病斑上の様子	分生子堆を形成し、その表面が破れるので触るとざらつく。 ベトベトする鮭肉色の分生子を出す	病斑表面は平滑でツルツルしている。 表皮下に黒い小粒状の柄子殻を生じる。
腐敗部の味	<u>苦い</u> （ビターテイスト）	あまり苦みを感じない（酸味あり）
品種間差異	<u>つがる・秋映・ゴールド等：多</u> ふじ：少	<u>ふじ等：多</u> つがる・秋映・ゴールド等：少



↑ 病斑部はくぼみ、硬い。苦味あり。



↑ 病斑部はくぼまず、柔らかい。

- ◆ 予防薬剤：アリエッティC水和剤 800～1,000倍 オーソサイド水和剤 800～1,000倍 他
- ◆ 詳細は果樹特報 No8（9/17 付け配布）参照